

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月20日

事業所名 放課後等デイサービス 喜び

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	4			利用者が多い時に、自由に運動をすると狭いと感じる。学習室やおやつ提供時の机が密な時がある。
	2	職員の配置数は適切である	7	2		基準以上の配置が出来ている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	1		手すりやスロープなど、バリアフリー化されている。	
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	5			行事計画書は日誌に挟み職員間で周知しているが、報告書は過ぎファイルに入れてしまうため見落としがある。勤務時間帯によっては話し合いに参加できず書面で終わってしまっている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1		アンケート調査後、職員間で共有し改善点を出し合っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	2			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3	4		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	2		どの職員にも研修の機会が与えられ、積極的に参加できている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	1		半年に一度、面談で得た情報を基に、個別支援会議を実施し、計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	3			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9			職員全員で話し合っって案を出している。	

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	2		固定化しないよう、担当が月ごとに変わり新しい活動の提供を行っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	3		長期休暇では、スケジュールや時間を意識しつつ、それぞれの利用者の課題に合った支援が出来ている。集団レクが苦手な児童には職員が一人付一緒に参加している。	きめ細やかという部分が難しい。利用者によっては、下校時間が遅く、利用時間が短いため、活動時間の確保など難しく感じる事もある。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	1		個別対応が必要な児童に対しては静養室等の個室にて支援している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	2		朝礼時に確認している。	長期休み時など朝から利用者が居る時は難しい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	3		前日の振り返りを翌朝の朝礼で共有している。	送迎での時間のズレなどもあり、終了後の振り返りはなかなか難しい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	1		来所した全利用者の記録をとり、職員全員が確認できるようになっている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	2			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	7	2			
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	1		児発管、担当職員が参加している。	
21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	9			FAX、メール、手紙など、学校によって様々な手段を使って調整を行っている。		
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	5	3		該当者なし	

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	1		職員2名以上で園に訪問し、情報共有できている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	2	1		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2	1	喜びに来てもらい、出前研修を実施してもらった。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3	4		以前はしていたが、現在は感染症予防のため実施していない。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	4	3	2	児発管が出席している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	1		送迎時や玄関対応の際、利用者の様子を伝えたり、家での様子を伺っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	6			保護者にペアレントトレーニングに関する研修を実施していない。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	1		利用開始前の契約時に詳細に説明している。		

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	1		相談があった場合、職員間で共有し、事業所でできる事はないかを話し合っている。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		3	6		希望調査をして、希望がある場合は実施していてもよいのではないかな。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9				苦情があった際は、苦情受付所に時系列で記録し、共有、改善点を考えている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9				通信は毎月配布。	1日の活動内容を報告していける方法があると良いのではないかな。
	35	個人情報に十分注意している	9					
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	1			利用者に合わせて、意思表示カードを配置。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5	2			
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	4	1			保護者への周知ができていない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1	1		毎年消防の方に来ていただき避難訓練を実施。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1	1		虐待防止の研修にも参加し、施設内研修も実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	4	3			身体拘束を行い利用者はいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	3	2			保護者からの話を伺い対応しているが指示所まではもらっていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9				ヒヤリハットがあった場合、記録し共有をしている。	